

2024年度自己点検・評価チェックシート

学部・研究科名：スポーツ科学部

基準1 理念・目的 点検・評価項目①

大学の理念・目的を適切に踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

○大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

自己評価	取り組み状況（目安400字程度以内）	根拠資料
5	【自己評価】 本学部ではコースごとに人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容を設定している。またそれらをwebサイトおよび要項に掲載している。 またそれらの目的は本学術院の特色であるスポーツ科学を通して本学教旨の実現を目指したものになっている。 【課題】 特になし 【グッドプラクティス】 特になし	1-①-1 早稲田大学スポーツ科学部教育理念 1-①-2 早稲田大学スポーツ科学部要項(p4, 5)

【評価基準】

1	2	3	4	5
人材育成その他の教育研究上の目的（以下、「目的」）を設定している。	・評価基準1を満たしている。 ・目的を学則別表に記載している。	・評価基準2を満たしている。 ・目的を学部・研究科単位で設定している。 ・目的は高等教育機関としてふさわしく、学部・研究科の個性や特徴を示している。	・評価基準3を満たしている。 ・目的と大学の理念との関連性を考慮し、文中に明示している。	・評価基準4を満たしている。 ・目的を課程ごと、学位ごとに定めている。

【前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況】

■前年度の課題
なし
■指摘事項に対する取り組み状況
なし

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
5	

基準1 理念・目的 点検・評価項目②

学部・研究科の目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示

○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

自己評価	取り組み状況（目安400字程度以内）	根拠資料
4	【自己評価】 本学部webサイトおよび学部要項において公表されている。 昨年度課題として挙げた、目的に関して定期的確認の機会設定に関し、本年度から定期的に点検・評価委員会を開催し、確認と議論の機会を設定している。 【課題】 大学の理念、3つのポリシー、6つのコース別の人材養成その他の研究教育上の目的、カリキュラム、各授業科目との関連について図示するなど、学生や学外者に向けての見える化を一層進める必要がある。 【グッドプラクティス】 6つのコース別に「人材養成その他の研究教育上の目的」を示している。	1-①-1 早稲田大学スポーツ科学部教育理念 1-①-2 早稲田大学スポーツ科学部要項 1-②-1 2024年度点検評価委員会議題書

【評価基準】

1	2	3	4	5
目的を刊行物やウェブサイトなどいずれかの方法で公表している。	目的を刊行物、ウェブサイトを含めた複数の方法で公表している。	・評価基準2を満たしている。 ・目的の公表にあたっては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに明示している。	・評価基準3を満たしている。 ・目的を箇所内の教職員が定期的に確認する機会を設定している。	・評価基準4を満たしている。 ・目的を箇条書きにする、図示化するなどの工夫により情報の得やすさや理解のしやすさに配慮している。

【前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況】

■前年度の課題
目的に関して定期的確認の機会設定について、本年度から定期的に点検・評価委員会を開催し、確認と議論の機会を設定している。
■指摘事項に対する取り組み状況
なし

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
1	2は複数の方法で公表しているという点であるが、webサイトでは記載がある一方、学部要項には目的に関する記載がなく、複数の方法で公表されていないため、1とした。

内部質保証のための方針及び手続を定めているか。 ○下記の要件を備えた内部質保証のための方針及び手続の設定 ・内部質保証に関する基本的な考え方 ・内部質保証の推進に責任を負う組織の権限と役割 ・教育の企画・設計、運用、検証及び改善・向上の指針（PDCAサイクルの運用プロセスなど）

自己評価	取り組み状況（目安400字程度以内）	根拠資料
3	【自己評価】 アセスメントポリシーをHPなどに掲載し、その推進のための組織として点検・評価委員会を定期的に開催することで、内部質保証の推進に関する確認や、議論の場を設定している。 【課題】 webサイトや要項などで、内部質保証体制を図示化するなど、PDCAの一連のサイクルを学生や外部に対し明示していない。 【グッドプラクティス】 特になし	2-①-1 点検・評価委員会規定 1-②-1 2024年度点検・評価委員会議題書 2-①-2 アセスメントポリシー

【評価基準】				
1	2	3	4	5
・内部質保証のための方針および手続を設定している。 ・内部質保証推進組織をはじめとする内部質保証に関する体制が整備され、各組織の権限・役割が内規等で定められている。	・評価基準1を満たしている。 ・内部質保証体制の各組織が十分に機能するよう、それぞれの役割が定義されている。	・評価基準2を満たしている。 ・内部質保証体制の各組織が十分な連携が図れるよう、それぞれの役割が定義されている。	・評価基準3を満たしている。 ・内部質保証体制を図示するなど、PDCAの一連のサイクルが明確にされている。	・評価基準4を満たしている。 ・内部質保証のための方針や手続について、所属の教職員に定期的に共有する機会を設けている。

【前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況】
■前年度の課題 アセスメントポリシーをwebサイトなどに掲載し、その推進のための組織として点検・評価委員会を定期的に開催することで、内部質保証の推進に関する確認や、議論の場を設定している。
■指摘事項に対する取り組み状況 なし

【大学点検・評価委員会による評価】	
評価	特記事項
3	

方針及び手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能しているか。
○方針及び手続に従った内部質保証活動の実施
○学部・研究科における点検・評価の定期的な実施
○学部・研究科における点検・評価結果に基づく改善・向上の計画的な実施
○行政機関、認証評価機関等からの指摘事項（設置計画履行状況等調査等）に対する適切な対応
○点検・評価における客観性、妥当性の確保

自己評価	取り組み状況（目安400字程度以内）	根拠資料
4	【自己評価】 2023年度以降、学部・研究科における点検・評価を定期的実施している。点検・評価結果に基づく改善・向上に関し、点検・評価委員会での確認・対話、教授会での共有、FDを実施している。 チェックシートに基づく年度ごとの点検の縦断の実施と、他箇所との比較に基づく客観性、妥当性の確保に努めている。 【課題】 FDの企画や参加者が十分とは言えない。そのための運営体制などが脆弱である。 【グッドプラクティス】 特になし	2-③-1 教務担当教務主任会運営細則 2-③-2 大学点検・評価委員会規程 1-①-2 早稲田大学スポーツ科学部要項 1-②-1 2024年度点検・評価委員会議題書 2-③-3 2024年度FDプログラム計画書

【評価基準】

1	2	3	4	5
・内部質保証の取組が方針と手続きに従って行われている。	・評価基準1を満たしている。	・評価基準2を満たしている。	・評価基準3を満たしている。	・評価基準4を満たしている。
・点検・評価結果に基づいて、内部質保証推進組織による改善のための検討が行われている。	・点検・評価および点検・評価の結果に基づく改善を定期的に行う仕組みを構築している。	・内部質保証推進組織による改善のための検討が行われ、その結果が箇所内に共有されている。	・点検・評価結果に基づく改善を行っている。	・内部質保証システムに関する自己点検・評価の結果に基づいた取り組みの結果、改善が見られる。
・文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応している。			・内部質保証のプロセスの客観性・妥当性を確保するための取組を行っている。	

【前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況】

■前年度の課題
なし
■指摘事項に対する取り組み状況
点検・評価委員会を定期的に開催しており、2024年6月、12月に同委員会を開催した。
点検・評価の結果に基づいたFDを企画・実施した。

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
4	追加提出資料により、点検・評価に基づく改善の取り組みが箇所の点検・評価委員会主導のもと、実行中（ないしは実行予定）であったこと、同委員会の今後のスケジュールも確認されていることから「4」に改定した。 【追加資料】 10_スポーツ科学学術院点検・評価委員会内規（20180222改正） 20240625_点検・評価委員会議事録 20241210_点検・評価委員会議事録

基準4 教育課程・学習成果 点検・評価項目①

授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

○課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定（授与する学位ごと）及び公表

自己評価	取り組み状況（目安400字程度以内）	根拠資料
4	【自己評価】 学部ウェブサイトおよび学部要項にて学位授与方針を公開しており、知識、技能、態度などを含んだうえで全学の学位授与方針とも関連性があり、学位授与方針に卒業要件、修了要件が明示されている。 【課題】 全学の理念と、学部のポリシーの関連を図示し、HPや要項に掲載するなどの見える化を図ることが望ましい。 【グッドプラクティス】 特になし	4-①-1 ディプロマポリシー卒業認定・学位授与に関する方針 1-①-2 学部要項

【評価基準】

1	2	3	4	5
- 学位授与方針を課程ごと学位ごとに設定している。 - 学位授与方針をウェブサイトや要項等で公表している。	- 評価基準1を満たしている。 - 学位授与方針は、知識、技能、態度などの要素を含んだものとなっている。	- 評価基準2を満たしている。 - 学位授与方針は全学の学位授与方針と関連性を有している。	- 評価基準3を満たしている。 - 学位授与方針に卒業要件、修了要件が明示されている。	- 評価基準4を満たしている。 - 箇条書きにする、平易な表現とする、図示化するなどの工夫により情報の得やすさや理解のしやすさに配慮している。

【前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況】

■前年度の課題

学位授与方針に卒業要件・修了要件の案内を記載した。

■指摘事項に対する取り組み状況

なし

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
4	

基準4 教育課程・学習成果 点検・評価項目②

授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定（授与する学位ごと）及び公表

- 教育課程の体系、教育内容
- 教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等

○教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な連関性

自己評価	取り組み状況（目安400字程度以内）	根拠資料
3	【自己評価】 教育課程の編成・実施方針をHPおよび学部要項にて公開しており、教育課程の編成・実施方針は、編成に関する考え方、実施に関する基本的な考え方を含んでいる。且つ学位授与方針との連関性を確認することができる。また科目区分に言及して明記している。 【課題】 授業内容やシラバスなどへの反映が不十分である。 【グッドプラクティス】 特になし	4-①-1 ディプロマポリシー卒業認定・学位授与に関する方針 4-②-1 カリキュラム・ポリシー教育課程の編成・実施の方針 1-①-2 学部要項

【評価基準】

1	2	3	4	5
・教育課程の編成・実施方針を課程ごと、学位ごとに設定している。	・評価基準1を満たしている。	・評価基準2を満たしている。	・評価基準3を満たしている。	
・教育課程の編成・実施方針をウェブサイトや要項等で公表している。	・教育課程の編成・実施方針は、編成に関する考え方、実施に関する基本的な考え方を含んでいる。	・教育課程の編成・実施方針に教育課程の体系、教育内容、構成する授業科目区分、授業形態等を記載している。	・箇条書きにする、平易な表現とする、図示化するなどの工夫により情報の得やすさや理解のしやすさに配慮している。	

【前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況】

■前年度の課題 情報の得やすさ、理解のしやすさについてHPや要項を修正した。	■指摘事項に対する取り組み状況 なし
--	----------------------------------

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
3	

基準4 教育課程・学習成果 点検・評価項目③

教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

○各学部・研究科において適切に教育課程を編成するための措置

- ・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性
- ・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮
- ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定
- ・個々の授業科目の内容及び方法
- ・授業科目の位置づけ（必修、選択等）
- ・各学位課程にふさわしい教育内容の設定
- ・初年次教育、高大接続への配慮（【学士】）
- ・教養教育と専門教育の適切な配置（【学士】）
- ・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等（【修士】【博士】）
- ・理論教育と実務教育の適切な配置等（【院専】）
- ・教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わり

○学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育の適切な実施

自己評価	取り組み状況（目安400字程度以内）	根拠資料
4	【自己評価】 教育課程の編成・実施方針と連関し、同方針に記載されている内容の科目が設置されている。科目区分と授業時間数は管理されており、授業時間当たりの単位数は全学的に運用が徹底されている。初年次教育には必修の教養科目を設置し、その後も各段階に応じた必修科目・科目群を設置し教育課程を編成している。また、取得できる学位は単一だが、コースを設置し、多様な学生・社会ニーズに対応している。 【課題】 社会的および職業的自立を図るための教育についての検討と実施 【グッドプラクティス】 1-2年次にスポーツ科学の学びの基礎となるアカデミックスキルの獲得を目的としたスポーツ教養演習Ⅰ,Ⅱ,Ⅲを修め、2-4年次の演習（ゼミ）、4年次の卒業研究を通した体系的な学修体制を学院全体で取り組んでいる。	1-①-2 学部要項 4-③-1 学科目配当表 4-③-2 学部HPカリキュラム

【評価基準】

1	2	3	4	5
教育課程の編成・実施方針と授業科目・教育課程の関連性を確認できる。	・評価基準 1 を満たしている。 ・教育課程の編成・実施方針に記載されている内容の科目が設置されている。 ・科目区分と設定されている授業時間数、単位数が適切である。	・評価基準 2 を満たしている。 ・学修成果の獲得という観点から必修科目や専門科目が適切に設置されている。 【学部】 ・初年次教育に配慮した科目や教養科目、共通科目等が適切に配置されている。 【研究科】 ・リサーチワークとコースワークが適切に組み合わせられている ・1 年次に研究倫理教育を受講することを要項等に記載している。 【専門職】 ・理論教育と実務教育のバランスに配慮している。	・評価基準 3 を満たしている。 ・学修成果の獲得という観点を踏まえて順次性や体系性に配慮した教育課程が編成されている。	・評価基準 4 を満たしている。 ・社会的および職業的自立を図るための教育を行っている。

【前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況】

■前年度の課題 社会的および職業的自立を図るための教育についての検討と実施。
■指摘事項に対する取り組み状況 学部HP（カリキュラム）において科目の順次性や体系などを動画などを交えてわかりやすく説明している。

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
4	

基準4 教育課程・学習成果 点検・評価項目④

学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

○各学部・研究科において授業内外の学生の学習を活性化し効果的に教育を行うための措置

- ・各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置（1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定等）
- ・シラバスの内容（授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、事前事後の学修の指示、成績評価方法及び基準等の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性の確保等）
- ・授業の内容、方法等を変更する場合における適切なシラバス改訂と学生への周知
- ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法（教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保、グループ活動の活用等）
- ・学習の進捗と学生の理解度の確認
- ・授業の履修に関する指導、その他効果的な学習のための指導
- ・授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示
- ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数（【学士】）
- ・研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示とそれに基づく研究指導の実施（【修士】【博士】）
- ・実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施（【院専】）
- ・各学部・研究科における教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり（教育の実施内容・状況の把握等）

自己評価	取り組み状況（目安400字程度以内）	根拠資料
3	【自己評価】 授業の特性や授業形態を考慮したクラス規模を設定している。また、年間50単位を超過する登録を認めていない。シラバス記載内容についても複数の職員および教員によりチェックし、必要に応じて修正を指導している。 【課題】 ポリシーやカリキュラムレベルでの取り組みと比較して、授業レベルでの取り組みに遅れが見られる。 【グッドプラクティス】 特になし	4-④-1 科目登録の手引きp33登録制限単位数 1-①-2 学部要項 P6（1）単位制度、p43 クラス担任制度

【評価基準】

1	2	3	4	5
教育課程の編成・実施方針と教育方法の連関性が確保されている。 ・授業内容・形態に配慮したクラス規模を設定している。	・評価基準1を満たしている。 ・年間の登録単位数が50単位を超過している学生について申し合わせに定める区分に応じて対応している。 ・シラバスチェックリストを活用し、記載項目に漏れがないか組織的に確認を行っている。	・評価基準2を満たしている。 ・授業外における学習に対する指導体制を構築している。 【研究科】 ・研究指導計画を学生に明示している。 【専門職】 ・実務的能力育成のための教育上の工夫を行っている。	・評価基準3を満たしている。 ・各科目の到達目標とDPで定める学修成果などポリシーとシラバス記載内容の整合性が確保されている。 ・学修成果の獲得という観点から、適切な授業方法、形態が採用され、実施されている。 【研究科】 ・研究指導計画に基づき研究指導を実施している。	・評価基準4を満たしている。 ・学位プログラムとしての順次性・体系性に配慮した科目の配置が行われている。 【学部】 ・対話型、問題発見・解決型授業の割合が75%を超過している。 【研究科】 ・研究指導計画について定期的に見直しを行っている。

【前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況】

■前年度の課題

ポリシーとシラバスの整合性の確認が必要となっている。

■指摘事項に対する取り組み状況

1-2年次のスポーツ教養演習の担当教員（クラス担任）や2-4年次演習（ゼミ）の担当教員によって、授業時間外の学修支援の体制を整えている。

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
1	追加提出資料により、シラバス第三者チェックについては実施を確認したが、クラス規模に関する考え方が読み取れなかったため、評価案の通りとさせていただきたい。 【追加資料】 教授会資料_シラバス第三者チェックの件

成績評価、単位認定を適切に行っているか。

○成績評価及び単位認定を適切に行うための措置

- ・単位制度の趣旨に基づく単位認定
- ・既修得単位等の適切な認定
- ・成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置

自己評価	取り組み状況（目安400字程度以内）	根拠資料
3	【自己評価】 事前事後の学修を含めた単位制度について毎年教員への周知を行っている。既修得単位の認定についてもルールを定め要項に記載している。また成績の評価はシラバスに記載の評価基準に則って評価している。 【課題】 各科目の成績評価の基準についてルーブリックを使用するなどの客観性を確保する取り組みを行い、各科目における成績分布を箇所内で共有し、適切な成績評価が行われているか確認する仕組みを構築していく必要がある。 【グッドプラクティス】 特になし	1-①-2 学部要項

【評価基準】

1	2	3	4	5
・事前事後の学修を含めた単位制度の趣旨について教員・学生への周知・徹底を行っている。 ・既修得単位の認定について箇所内で明確なルールを定めている。 【学部】 ・「学部教育における成績評価基準に係わる申し合わせについて」に基づいた運用を行っていない。 【研究科】 ・成績評価基準を定めていない。	・評価基準1を満たしている。 ・既修得単位の認定に関するルールについて、要項等で学生に周知している。 ・成績評価基準に基づいた運用を行っている。	・評価基準2を満たしている。 ・学修成果の可視化に関する科目については絶対評価を用いるなど科目の性質に応じた柔軟な運用を行っている。	・評価基準3を満たしている。 ・成績評価を行うにあたって、ルーブリックを使用するなど、客観性を確保するための取り組みを行っている。	・評価基準4を満たしている。 ・各科目における成績分布を箇所内で共有し、適切な成績評価が行われているか確認する仕組みを構築している。

【前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況】

■前年度の課題

■指摘事項に対する取り組み状況

なし

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
1	学部教育における成績評価基準に係る申し合わせに基づいた、成績評価の割合を定めていることが根拠資料から読み取れなかったため、1とした。

学位授与を適切に行っているか。

○学位授与を適切に行うための措置

- ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表
- ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置
- ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示
- ・適切な学位授与

自己評価	取り組み状況（目安400字程度以内）	根拠資料
3	【自己評価】 卒業の要件を定め、卒業の要件を刊行物、HPや要項等で公表している。 学位授与の責任体制・手続きについて定めている。 卒業に必要な単位取得や成績の基準やスケジュールなどについて明示している。 【課題】 卒業研究の評価基準について客観性を確保する一層の取り組みを行い、適切な成績評価が行われているか確認する仕組みを構築していく必要がある。 【グッドプラクティス】	1-①-2 学部要項 4-⑤-2-1 学部HP 成績・卒業

【評価基準】

1	2	3	4	5
・卒業・修了の要件を定めている。 ・卒業・修了の要件を刊行物、ウェブサイト等で公表している。 ・既修得単位数について上限を超えて認定されないような仕組みを設定している。 【研究科】 ・研究指導の方法やスケジュールを定めている。 ・学位論文等の審査基準を公表している。	・評価基準1を満たしている。 ・学位授与の責任体制・手続きについて定めている。 ・既修得単位の認定について箇所内での基準・手続き方法を定め、要項等で周知している。 【研究科】 ・研究指導の方法やスケジュールを学生にあらかじめ明示している。 ・学位論文の審査基準を学生に文書等であらかじめ明示している。	・評価基準2を満たしている。 ・学位授与の責任体制・手続きを要項等で明示している。	・評価基準3を満たしている。 【学部】 ・卒業論文等について複数の教員で審査するなど組織的な審査体制を構築している。 【研究科】 ・副指導教員を置くなど研究指導体制の充実を図っている。	・評価基準4を満たしている。 ・学位授与の認定にあたってルーブリック評価を行うなど、客観性、透明性の確保のための工夫を行っている。

【前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況】

■前年度の課題

学部要項において、自由科目等卒業算入しない単位を含めて、年間の登録上限単位数を49単位と明示している。これにより、資格取得を目的とした場合も含め、履修単位の過剰な登録を抑制している。

■指摘事項に対する取り組み状況

なし

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
1	学位授与対象者を定められた会議体で決定していることが確認できなかったため、1とした。

基準4 教育課程・学習成果 点検・評価項目⑥

学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

○各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定

○学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握及び評価するための方法の開発

自己評価	取り組み状況（目安400字程度以内）	根拠資料
4	【自己評価】 学修成果の可視化方法を、直接評価・間接評価双方から学問の特性を加味して設定しているが、本年度、学修成果の可視化方法を設定したため、今後その妥当性や経年変化を検証する必要がある。 【課題】 学生の学修成果を把握及び評価するための方法の開発が必要である。 【グッドプラクティス】	2-①-2 アセスメントポリシー

【評価基準】

1	2	3	4	5
・学修成果の指標および可視化の方法を検討している。	・評価基準1を満たしている。 ・学修成果の指標および可視化の方法を定めている。 ・学位授与方針で示した学修成果と可視化の方法の関連性が明確である。 ・可視化の方法が多角的かつ適切な方法となっている。	・評価基準2を満たしている。 ・学修成果の指標および可視化の方法が専門分野の性質に応じた適切なものとなっている。	・評価基準3を満たしている。 ・間接評価と直接評価を組み合わせ可視化を行っている。	・評価基準4を満たしている。 ・直接評価と間接評価の相関分析などによりデータの妥当性を検証している。 ・経年比較などを行っている。

【前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況】

■前年度の課題

学生の学修成果を把握及び評価するための方法の開発が必要である。

■指摘事項に対する取り組み状況

なし

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
3	学修成果を可視化する方針は定めているが、実際に可視化を行っているかどうかを根拠資料から判断できなかったため、3とした。

基準4 教育課程・学習成果 点検・評価項目⑦

教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

○適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価

- ・学習成果の測定結果の適切な活用

○点検・評価結果に基づく改善・向上

自己評価	取り組み状況（目安400字程度以内）	根拠資料
3	【自己評価】 点検・評価の方法を定めて、点検・評価委員会を設置し、定期的な点検・評価を実施している。 学生による授業アンケートの評価を可視化し、毎年各教員にフィードバックされている。 質・量ともに十分とは言えないが、点検・評価に基づいたFDを実施している。	2-①-1 点検・評価委員会規定 2-①-2 アセスメントポリシー 1-②-1 2024年度点検・評価委員会議題書 2-③-3 2024年度FDプログラム報告書
	【課題】	
	【グッドプラクティス】	

【評価基準】

1	2	3	4	5
・教育課程の内容、方法等の自己点検・評価の体制・方法等について検討を行っている。	・評価基準1を満たしている。 ・教育課程の内容、方法等の自己点検・評価の体制・方法等について内規等で定めている。	・評価基準2を満たしている。 ・学修成果の可視化を定期的に行い、その評価結果を教育課程の検討を担う組織にフィードバックしている。	・評価基準3を満たしている。 ・点検・評価結果を踏まえ、教育課程の改善・向上に向けた検討に着手している。	・評価基準4を満たしている。 ・点検・評価結果を踏まえた教育課程の改善・向上の実績がある。また、定期的に改善・向上を検討するサイクルが確立している。

【前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況】

■前年度の課題 アセスメントポリシーは策定・公開済みであり、委員会の設置と活動を定期的に行っている。
■指摘事項に対する取り組み状況 なし

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
2	学修成果の可視化の結果が報告・フィードバックされているか不明のため、2とした。

基準5 学生の受け入れ 点検・評価項目①

学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

自己評価	取り組み状況（目安400字程度以内）	根拠資料
4	【自己評価】 アドミッションポリシーを根拠資料のとおり公表しており、求める学生像を記載している。他のポリシーとの一貫性を確保したうえで設定している。 【課題】 【グッドプラクティス】 2025年度入試改革として一般入試・共通テスト利用入試の変更だけでなく、総合型選抜入試においても、スポーツサポート入試の導入など、アドミッションポリシーに基づいたより良い人材の確保に努めている。	5-①-1 アドミッションポリシー

【評価基準】

1	2	3	4	5
・課程ごとに学生の受け入れ方針を設定している。 ・学生の受け入れ方針を刊行物やウェブで公表している。	・評価基準1を満たしている。 ・学生の受け入れ方針に、求める学生像を明示している。	・評価基準2を満たしている。 ・学位ごとに学生の受け入れ方針を定めている。 ・他のポリシーとの一貫性が確保できている。	・評価基準3を満たしている。 ・学生の受け入れ方針に、入学前の学習歴、学力水準、能力、判定方法についても明示している。	・評価基準4を満たしている。 ・簡条書きにする、平易な表現とする、図示化するなどの工夫により情報の得やすさや理解のしやすさに配慮している。

【前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況】

■前年度の課題

新たに改定されたアセスメントポリシーは簡条書きで求める能力を具体的に示した。また、アセスメントポリシーの改定の後、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーが改定された。これらの内容を学部webサイトや学部要項等に明示した。

■指摘事項に対する取り組み状況

新たに改定されたアセスメントポリシーは簡条書きで求める能力を具体的に示した。また、アセスメントポリシーの改定の後、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーが改定された。これらの内容を学部webサイトや学部要項等に明示した。

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
3	判定方法などについて記載がないため、3とした。

基準5 学生の受け入れ 点検・評価項目②

学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 授業料その他の費用や経済的支援に関する情報提供
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
 - ・オンラインによる入学者選抜を行う場合における公正な実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施
 - ・オンラインによって入学者選抜を行う場合における公平な受験機会の確保（受験者の通信状況の配慮等）

自己評価	取り組み状況（目安400字程度以内）	根拠資料
3	【自己評価】 根拠資料のとおり、入学者選抜に係る情報を公表しており、学生の受け入れ方針に基づいた入学者選抜を公正に実施している。 また、学費や奨学金情報もWebサイトに案内を出している。 【課題】 方針に沿った学生を受け入れているかデータに基づき継続的に確認する体制を構築していく必要がある。 【グッドプラクティス】 特になし	5-②-1 入学試験情報

【評価基準】

1	2	3	4	5
・学生の受け入れ方針と選抜制度に関連性が確保されている。	・評価基準1を満たしている。 ・学生の受け入れ方針を具現化するための運営体制を整備している。	・評価基準2を満たしている。 ・整備された運営体制のもと入学者の選抜が公正に実施されている。 ・費用や経済的支援に関する情報提供を行っている。	・評価基準3を満たしている。 ・方針に沿った学生を受け入れていることをデータにより確認している。	・評価基準4を満たしている。 ・学生の受け入れ方針を具現化するための運営体制の見直しを行っている。

【前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況】

■前年度の課題

方針に沿った学生を受け入れているかデータに基づき継続的に確認する体制を構築していく必要がある。

■指摘事項に対する取り組み状況

なし

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
1	学生の受け入れ方針に選抜方法に関する記載がなく、方針・求めている能力等と選抜方法の関連性が読み取れなかったため、1とした。

基準5 学生の受け入れ 点検・評価項目③

適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	
○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理	
・入学定員に対する入学者数比率（【学士】）	
・編入学定員に対する編入学生数比率（【学士】）	
・収容定員に対する在籍学生数比率	
・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応	

自己評価	取り組み状況（目安400字程度以内）	根拠資料
2	【自己評価】 入学者選抜の実施にあたり、適切な定員を設定し根拠資料のとおり、収容人数に基づき適正に管理している。	5-③-1 学生に関する情報 5-③-2 2025年度入試改革 5-③-3 2025年度一般選抜・共通テスト利用入試の件
	【課題】	
	【グッドプラクティス】	
	特になし	

【評価基準】

1	2	3	4	5
・収容定員に対する在籍学生数比率の管理を行っている。 【学部】 ・入学定員充足率の5年平均もしくは収容定員充足率が、是正勧告に該当する基準（注1）をクリアしている。	・評価基準1を満たしている。 【学部・研究科】 ・入学定員充足率の5年平均もしくは収容定員充足率が、改善課題に該当する基準（注2）をクリアしている。	・評価基準2を満たしている。 【学部・研究科】 ・収容定員と在籍学生数に齟齬が生じた場合の対応方法やフローを確立している。	・評価基準3を満たしている。 ・3つのポリシーなどに基づいて、あるべき収容定員数について意見交換を行う機会を設定している。	

【前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況】

■前年度の課題 入試広報委員会、教授会にて定期的に意見交換を行う機会を設定しており、2025年度より入試種別ごとの定員数を一部見直している。
■指摘事項に対する取り組み状況 なし

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
2	

基準5 学生の受け入れ 点検・評価項目④

学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

○適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価

○点検・評価結果に基づく改善・向上

自己評価	取り組み状況（目安400字程度以内）	根拠資料
3	【自己評価】 学生の受け入れに関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセスについて、入試広報委員会や執行委員会などで議論している。 新入生調査の解答を整理し、教授会で共有している。 【課題】 点検・評価に基づいた入試方法の改善の具体的な取り組みについて検討していく必要がある。 【グッドプラクティス】 特になし	5-④-1 入試広報委員会規約 5-④-2 新入生アンケートの件 報告事項 3

【評価基準】

1	2	3	4	5
・学生の受け入れに関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセスについて検討している。	・評価基準1を満たしている。 ・学生の受け入れに関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセスを内規等で定めている。	・評価基準2を満たしている。 ・学生の受け入れに関する自己点検・評価を定期的に実施している。	・評価基準3を満たしている。 ・学生の受け入れに関する自己点検・評価の結果に基づき、改善に取り組んでいる。	・評価基準4を満たしている。 ・学生の受け入れに関する自己点検・評価の結果に基づき、定期的な改善実績がある。

【前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況】

■前年度の課題

■指摘事項に対する取り組み状況

なし

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
1	箇所の取り組みとして、学生の受け入れについて、以下のいずれの点を検討し・内規等に定めているか明らかでないため、1とした。 ①点検・評価を行う組織、②点検・評価結果に基づいて改善を検討する組織（①と②は、既存の組織を活用することが可能、また、①と②について同一の組織が担うことも可能）、③点検・評価の頻度・スケジュール、④点検・評価に用いる指標

基準6 教員・教員組織 点検・評価項目①

大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

○求める教員像の設定

- ・各学位課程における専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等

○各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針（分野構成、各教員の役割、連携のあり方、教育研究に係る責任所在の明確化等）の適切な明示

自己評価	取り組み状況（目安400字程度以内）	根拠資料
4	【自己評価】 Waseda Vision 150スポーツ科学学院の将来構想において「グローバルリーダー育成に向けて、本学院の研究・教育を格段に高めることのできる教員」の採用を掲げている。また、それを実現するための将来の人事構想に向けて定期的な議論を行っている。 【課題】 教員組織の編成に関する方針についての点検・評価の結果に基づき、定期的な改善を行えていない。 【グッドプラクティス】 人事委員会、将来構想委員会での議論に加え、教授会を通して人事に関する教職員のアイデアを募集するなどの取り組みを進めている。	6-①-1 Waseda Vision 150スポーツ科学学院の将来構想の進捗状況報告

【評価基準】

1	2	3	4	5
各学部・研究科の教員組織の編制に関する方針を定めている。	・評価基準1を満たしている。 ・各学部・研究科の教員組織の編制に関する方針において求める教員像を提示している。	・評価基準2を満たしている。 ・各学部・研究科の教員組織の編制に関する方針を箇所内で適切に共有している。	・評価基準3を満たしている。 ・教員組織の編制に関する方針について定期的に点検・評価を行う体制となっている。	・評価基準4を満たしている。 ・教員組織の編制に関する方針についての点検・評価の結果に基づき、定期的な改善を行っている。

【前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況】

■前年度の課題
教員組織の編成に関する方針についての点検・評価の結果に基づき、定期的な改善を行えていない。
■指摘事項に対する取り組み状況
なし

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
1	追加提出資料により、例えば採用計画報告から直近年度の個別の採用公募における教員の役割等についてはわかるものの、評価項目にある通り、教員組織の編制方針が未策定であり、また、箇所の求める教員像としての記載も不足しているため、評価案通りとさせていただきます。 【追加資料】 01_2025年度教員人事採用計画報告 教務部提出 02_サンプル) スポ科院教員公募情報 (JREC-IN 掲載情報) ※2026年度公募 (スポーツ哲学) 02_サンプル) スポ科院教員公募情報 (JREC-IN 掲載情報) ※2026年度公募 (スポーツ国際開発学) 02_サンプル) スポ科院教員公募情報 (JREC-IN 掲載情報) ※2026年度公募 (アドバンスト・スポーツ) スポ任期付教員採用に関する運用内規 スポ科院_専任教員採用に関する運用内規 スポ科院_昇任に関する運用内規 スポ科院_講師任期付き採用に関する運用内規 スポ科院_講師任期付任期更新に関する運用内規 スポ非常勤講師採用に関する運用内規 教員人事 2025年度採用計画 教授会承認議事録抜粋 (点検評価用)

教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

○学部・研究科等ごとの専任教員数

○適切な教員組織編制のための措置

- ・教員組織の編制に関する方針と教員組織の整合性
- ・各学位課程の目的に即した教員配置
- ・国際性、男女比
- ・特定の範囲の年齢に偏ることのないバランスのとれた年齢構成への配慮
- ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員（教授又は准教授）の適正な配置
- ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置
- ・教員の授業担当負担への適切な配慮

○教養教育の運営体制

自己評価	取り組み状況（目安400字程度以内）	根拠資料
3	【自己評価】 専任教員数は設置基準を満たしており、教員組織の編成方針に則った採用活動が行われている。将来構想委員会における人事構想に沿った教員公募が実施されている。学部基礎教育についても充実化した。 【課題】 教員基礎数（56名）の専任教員枠について、その全数を絶え間なく埋めることが理想であるが、人事凍結や求める人材に合致する応募が無いことで十分に埋めることができていない。また、スポーツ科学分野の女性研究者が少ないことから、男女比が著しくバランスを崩している。 【グッドプラクティス】 特になし。	6-②-1 教員人事採用計画報告

【評価基準】

1	2	3	4	5
・専任教員数または教授数が設置基準を満たしている。 【専門職】 ・実務家教員が適切に配置されている。	・評価基準1を満たしている。 ・教員組織の編制方針に則った採用活動を行っている。	・評価基準2を満たしている。 ・各学部・研究科の教員組織の編成に関する方針に基づく適切な教員編成となっている。（課程の目的、主要な授業科目への専任教員の配置、研究科担当教員の資格の明確化）	・評価基準3を満たしている。 ・国際性、男女比、年齢構成、各教員の授業負担のバランスの観点において適切に教員を配置している。	・評価基準4を満たしている。 【学部】 ・教養科目や共通科目等の運営についての体制を構築している。

【前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況】

■前年度の課題

教員基礎数（56名）の専任教員枠について、その全数を絶え間なく埋めることが理想であるが、人事凍結や求める人材に合致する応募が無いことで十分に埋めることができていない。また、スポーツ科学分野の女性研究者が少ないことから、男女比が著しくバランスを崩している。

■指摘事項に対する取り組み状況

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
2	方針に従った採用活動が行われていると考えられるが、教員の構成などが方針に定められておらず、方針どおりの教員構成となっているかどうかは確認できないため、2とした。

基準6 教員・教員組織 点検・評価項目③

教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

○教員の職位（教授、准教授、助教等）ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続の設定と規程の整備

○規程に沿った教員の募集、採用、昇任等の実施

自己評価	取り組み状況（目安400字程度以内）	根拠資料
5	【自己評価】 将来に向けた人事構想に則った公募を実施しており、その都度、求める人材に相応しい職位での募集を行っている。また、昇任に関する規約も整備され、適切に運用されている。 【課題】 特になし 【グッドプラクティス】 特になし	6-②-1 教員人事採用計画報告 6-③-1 スポ科院昇任に関する内規

【評価基準】

1	2	3	4	5
・募集、採用、昇任等に関する基準や手続きを定めている。	・評価基準 1 を満たしている。 ・募集、採用、昇任等に関する基準や手続きを定め、規定化することにより箇所内で共有している。	・評価基準 2 を満たしている。 ・規定に基づき、募集、採用、昇任等の実施が行われている。	・評価基準 3 を満たしている。 ・規定や運用について定期的に自己点検・評価を行う体制となっている。	・評価基準 4 を満たしている。 ・点検・評価の結果を踏まえて定期的な改善を行っている。

【前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況】

■前年度の課題

なし

■指摘事項に対する取り組み状況

なし

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
3	追加提出資料により、募集、採用、昇任等に関する内規等が作成され、それに基づき各手続きが実施されていることを確認したため、「3」に改定した。 【追加資料】 02_サンプル) スポ科院教員公募情報 (JREC-IN 掲載情報) ※2026年度公募 (スポーツ哲学) 02_サンプル) スポ科院教員公募情報 (JREC-IN 掲載情報) ※2026年度公募 (スポーツ国際開発学) 02_サンプル) スポ科院教員公募情報 (JREC-IN 掲載情報) ※2026年度公募 (アダプテッド・スポーツ) スポ任期付教員採用に関する運用内規 スポ科院_専任教員採用に関する運用内規 スポ科院_講師任期付き採用に関する運用内規 スポ科院_講師任期付任期更新に関する運用内規 スポ非常勤講師採用に関する運用内規

ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。

○ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動の組織的な実施

○教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価とその結果の活用

自己評価	取り組み状況（目安400字程度以内）	根拠資料
2	【自己評価】 学部・研究科ごとに教育改善にかかるFDが組織的に実施されており、本年度から研究や社会貢献活動、点検・評価に基づくFDの実施を開始した。 【課題】 FDを定常的、かつ適切なテーマで開催するための人的、費用的リソースが不十分である。 【グッドプラクティス】 特になし	2-③-3 2024年度FDプログラム報告書

【評価基準】

1	2	3	4	5
・学部・研究科単位でFD活動を行っている。	・評価基準1を満たしている。 ・課程ごとに教育改善にかかるFDが組織的に実施されている。 ・教育に加えて研究や社会貢献活動にかかる資質向上を目的としたFDが実施されている。	・評価基準2を満たしている。 ・エビデンスにより明らかになった課題の改善を目的としたFDプログラムを実施している。 ・恒常的に専任教員の3/4以上がFDプログラムに参加している。	・評価基準3を満たしている。 ・FD活動によって教育活動等の改善を行っている。	・評価基準4を満たしている。 ・自己点検・評価の結果、FD活動の改善に取り組んでいる。 ・専任教員全員が恒常的にFDプログラムに参加している。

【前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況】

■前年度の課題
学部・研究科ごとに教育改善にかかるFDが組織的に実施されており、本年度から研究や社会貢献活動、点検・評価に基づくFDの実施を開始した。
■指摘事項に対する取り組み状況
なし

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
2	追加提出資料により、教育に加え研究や社会貢献活動に係る資質向上を目的としたFD活動が実施されていることを確認したため、「2」に改定した。 【追加資料】 2024年度_上半期FD報告書 2024年度_下半期FD報告書

基準6 教員・教員組織 点検・評価項目⑤

教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

○適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価

○点検・評価結果に基づく改善・向上

自己評価	取り組み状況（目安400字程度以内）	根拠資料
2	【自己評価】 人事委員会による、専門分野のバランス、社会や学生のニーズ、人材の多様性などの視点から、教員組織の適切性について定期的に議論している。 【課題】 人事委員会もしくは点検・評価委員会で、教員組織の適切性に関する評価軸を検討する必要がある。 【グッドプラクティス】 特になし	6-⑤-1 01_170713_教員評価教授会提案_原案 6-②-1 教員人事採用計画報告

【評価基準】

1	2	3	4	5
・教員組織に関する自己点検・評価に対する基準、体制、方法、プロセス等を検討している。	・評価基準1を満たしている。 ・教員組織に関する自己点検・評価に対する基準、体制、方法、プロセス等を内規等で定めている。	・評価基準2を満たしている。 ・教員組織に関する自己点検・評価を実施している。	・評価基準3を満たしている。 ・教員組織に関する自己点検・評価の結果を踏まえ改善に取り組んでいる。	・評価基準4を満たしている。 ・教員組織に関する自己点検・評価を踏まえ定期的に改善を行っている。

【前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況】

■前年度の課題 人事委員会もしくは点検・評価委員会で、教員組織の適切性に関する評価軸を検討する必要がある。
■指摘事項に対する取り組み状況 なし

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
1	教員組織について、以下の点を検討するための内規、方針等を定めていることが提出資料から確認できなかったため、1とした。①点検・評価を行う組織、②点検・評価結果に基づいて改善を検討する組織（①と②は同一の組織でもよく、既存の組織の活用も可能）、③点検・評価の頻度・スケジュール、④点検・評価に用いる指標

<人材養成の目的、3ポリシー、学修成果、アセスメントポリシー、カリキュラム、入試制度の変更>

※2023年10月以降に変更を決定した項目があれば記載してください。

項目	変更時期	変更内容	変更理由・変更の根拠
アセスメント・ポリシー	2024年3月 (学部要項、学部webサイトへの掲載)	研究科webサイト 教育理念 https://www.waseda.jp/fsps/gsps/about/policy/	スポーツ科学研究科における教育の質の確保のため、その拠り所となる基本的な考え方を明示するため。
ディプロマ・ポリシー	2024年3月	研究科webサイト 教育理念 https://www.waseda.jp/fsps/gsps/about/policy/	スポーツ科学研究科における教育の質の確保のため、その拠り所となる基本的な考え方を明示するため。
カリキュラム・ポリシー	2024年3月	研究科webサイト 教育理念 https://www.waseda.jp/fsps/gsps/about/policy/	スポーツ科学研究科における教育の質の確保のため、その拠り所となる基本的な考え方を明示するため。
アドミッション・ポリシー	2024年3月	研究科webサイト 教育理念 https://www.waseda.jp/fsps/gsps/about/policy/	スポーツ科学研究科における教育の質の確保のため、その拠り所となる基本的な考え方を明示するため。